

# その1 香港漫画のゴッドファーザー・黄玉郎

## (1) 「龍虎門」開始前夜

黄玉郎とは… 1950年生まれ。60年代後半にデビュー、69年連載開始の「龍虎門」が大ブームに。出版社を設立し有力漫画家を次々傘下に収め、80年代には「酔拳」「中華英雄」の大ヒットで経営を盤石に。経営多角化を進めるが、80年代末に不況と傘下漫画家離反で苦境に陥り、ついに詐欺横領事件で逮捕、91年有罪判決&投獄。出所後新会社「玉皇朝」を設立、みごと再起。漫画界の中心人物として振り返り、香港書展（ブックフェア）からの分離イベント「香港漫画節」設立などに尽力。アニメ・電子出版・飲食業などにも手を広げ、実業界や芸能界にも顔が広い。映画「ポリス・ストーリー／香港国際警察」にも端役出演。



黄玉郎(1987年)



「小傻仙」  
(1968年 第1巻)  
●オリジナル版



「小傻仙」  
●復刻版(2008年)

- T 「じゃあいちおう、歴史をたどる形でいきますかね」  
K 「まあ『龍虎門』以前からいきましょう」  
T 「(『香港漫画図鑑』を指さし) ここに書いてありますが、1968年から71年までに黄玉郎は『超人の子(ウルトラマンの息子)』『小傻仙』『小魔神』と3作のヒットを出しました。そのひとつが『小傻仙』ですね」  
K 「『小傻仙』は復刻されました」  
T 「いつ？」  
K 「2008年頃の動漫電玩節で」  
T 「あ、そうですか」  
K 「小さい判型で、何冊かまとめた復刻本。玉皇朝のブースで売ってました。それとついでに、『小魔神』も復刻されてます」  
T 「あ、『小傻仙』は2008年の動漫節の『漫人協会』連合ブースで展示のみじゃなかったんですか？」  
K 「いえ、2008年の動漫節で復刻版が出て、結構ブレイクな造本で。『小魔神』も復刻版が出たことか？」  
T 「いちおう著作権を持っているのは文化傳信なんですよ。もともとの出版社『玉郎機構』が文化傳信に引き継がれて、玉皇朝会社はこの当時の遺産の権利は本当は持ってないんです。社主の黄玉郎は作者なのに、文傳から『授権』されて出しているという」  
K 「授権はアメコミの状況と似ていると思います。昔に比べると最近では、漫画が商売としてあんまり良くなかったりするから」  
T 「そう、最近はそのへんがg d g dになってきましたね。売れなくなって、あんまり権利を囲い込んでも得じゃなくなってきたから。どんどんコラボしたり、会社の垣根を越えてでも利益を確保しようっていう傾向がありますよね。漫画に限らずエンタメ関係はみんなそうでしょう。映画も音楽もそうです」  
K 「はい」  
T 「で、つまり『小魔神』は玉皇朝と文傳の両方で出たってことですか？」